

No.160  
2009.  
8.31

# 岐阜の博物館

編集兼発行  
〒501-3941 関市小屋名  
(岐阜県百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111

## センスオブワンダー 岐阜県先端科学技術体験センター(サイエンスワールド) 館長 日比野 安平



平成7年当時の内閣が若者の理科・科学技術離れを危惧して、全国に実験体験に特化した科学館を造ろうということになった。その第1号に手を挙げたのが岐阜県であり、ここを

皮切りに各県に造る筈だったが2号館以降は未だ無い。平成11年の7月に岐阜県先端科学技術体験センターとして開館し、今年で10周年を迎えた。

学校では実施不可能な先端科学体験や大型の設備を使う実験で楽しんで頂くのが基本だが、最近では現場から授業に直結する指導を依頼されることも多くなり、指導要領の改訂を受けて先んじてメニューを準備している。

今年には教員免許の10年目更新時講習を実施する科学館として国から指定を受けた。

「教えない(考えさせる)」、「叱らない」、「評価しない」の三無いをモットーに、「サプライズ」、「セーフティ」、「シンプル」、「スマイル」の4つのSを掲げている。

子供は本来遊びが好きで、科学工作や生き物と遊ぶことが大好きである。本物に直に触れることの意味は、思ったより大きい。本物が持っている膨大な情報と尽きない魅力は、映像や書物からだけでは得られない迫力がある。虫や魚や犬や猫、花など生き物はいつまで見ても飽きない。絵画や音楽などの芸術作品も、本物にはいいしれぬ力がある。

情操は育つべき時を選び、実体験は何時でもいいというものでもなさそうだ。幼少期に育った情操の上に、学校などで学ぶ知識が積重なっていくことによって、豊かな知性が育っていくように思う。「センス

オブワンダー」といっているが、不思議や驚きに出会った時、素直に驚き不思議に思う感性がその後の人生の豊かさや無縁とは思われない。

当館は展示物のない科学館で、教材は職員の手作りである。材料は家庭で不要の牛乳パックやペットボトルやタマネギの皮などを職員が持ち寄ったものも多い。これなら当館で体験した科学工作や遊びは、自宅でも楽しめる。今年には開館10周年を記念して、当館オリジナルの開発教材を中心に作成した記念誌を、県下の全学校と希望者に提供した。

教材を来館者の前に提示できるまでには、難易にかかわらず、どれも約3ヶ月の練り上げ期間が必要である。子供も大人も広く楽しめるものを今後も提供していきたいと思っている。子供用に見えても、実は子供を連れてきた親が夢中になれるように工夫している。子供を楽しませるつもりで連れてきたお父さんが知らぬ間に夢中になっていて、それを子供が見るくらい教育効果の上がることはない。

幼児や小学生が楽しめるものから、遺伝子組替、DNA鑑定、液晶、有機EL、光触媒、伝導プラスチックなど現場の教員や一般対象にも先端科学技術講座を用意している。

目の不自由な人の為の科学実験メニューについても、色の変化に頼らないで音や温度の変化を体験できる教材を盲学校と連携して研究した。また実験工作を安全に楽しむための工作器具も手作りで準備している。

今年には10周年記念特別講演会に元文部大臣の有馬朗人氏(物理学者で俳誌「天為」主宰)を講師に迎えた。カムイスペースワークスの植松努氏にロケット講座もお願いした。

# 平成21年度 岐阜県博物館協会通常総会報告

期 日：平成21年5月29日(金)  
会 場：岐阜県博物館 ハイビジョンホール  
参加者：104名(委任状を含む)

平成21年度岐阜県博物館協会通常総会が平成21年5月29日午後1時から岐阜県博物館ハイビジョンホールで開催されました。



(若宮会長の挨拶)

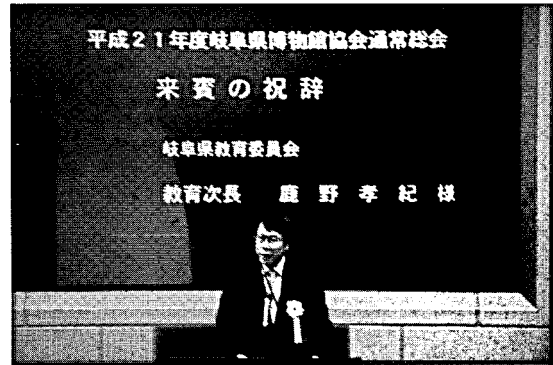
議事に先立ち、若宮会長の挨拶の後、平成21年度の博物館関係功労者として次の方が表彰を受けられました。

岐阜県美術館 学芸員 廣江 泰孝 様



(表彰式)

次に来賓を代表して、岐阜県教育委員会教育次長 鹿野孝紀様よりご祝辞を頂きました。



(祝辞を述べる鹿野教育次長)

議事は「1 平成20年度事業報告(案)及び収支決算(案)の承認」、「2 平成21年度事業計画(案)及び収支予算(案)の決定」、「3 役員を選任(補充)」についてであり、いずれも原案のとおり承認されました。

平成21年度の主な事業は公開講座の開催、研修・研究会の開催、機関誌の発行、地域活性化支援事業、東海三県研究交流会等となっています。

平成20年度に助成金を頂いたのは次の4団体でした。

田口福寿会	50万円
十六銀行	50万円
大垣共立銀行	50万円
岐阜信用金庫	30万円

(事務局長 井上幸治)

## 協会役員のご紹介

本年は役員改選の年ではありませんが、4月の人事異動等に伴う役員の選任(補充)について、下記のとおり承認されました。

役 職	氏 名	所 属
名誉会長	土野 守	高山市長
会 長	若宮 多門	若宮修古館
副 会 長	名和 哲夫	名和昆虫博物館
	古川 秀昭	岐阜県美術館
	*浅野 裕司	岐阜県博物館
	榎本 徹	岐阜県現代陶芸美術館
	*西永 勝己	高山市郷土館
専務理事	*井上 幸治	岐阜県博物館
理事(岐阜)	高木 洋	岐阜市歴史博物館
	*長縄 厚雄	内藤記念くすり博物館
	堀 由紀子	岐阜県世界淡水魚園水族館
	*苅谷 純次	岐阜市科学館
	(西濃)	片野 知二
	高橋 宏之	揖斐川歴史民俗資料館
	*伊藤 一	海津市歴史民俗資料館
	高木 優榮	関ヶ原町歴史民俗資料館
	野寺 紀夫	大垣市四館総括責任者
(中濃)	市原 俊美	美濃和紙の里会館
	可児 光生	美濃加茂市民ミュージアム
	金子 徳彦	古今伝授の里フィールドミュージアム
	*林 良治	可児郷土歴史館
(東濃)	奥村 好次	瑞浪市化石博物館
	小栗 幸江	美濃歌舞伎博物館相生座他
	荻野 義雄	中津川市鉱物博物館他
	*水野 昭敏	土岐市美濃陶磁歴史館
	平林 典三	日本大正村

(飛騨)	川上 裕惟	下呂発温泉博物館
	谷田 勉	高山祭屋台会館
	加藤 郁乎	光記念館
	浅野 裕司	岐阜県ミュージアムひだ
	谷端 敏明	飛騨古川まつり会館
	森 勇喜雄	白川郷野外博物館合掌造り民家園
監 事	齋藤 仁司	齋藤美術館
	高井 孝純	かかみがはら航空宇宙科学博物館
	日比野安平	岐阜県先端科学技術体験センター
顧 問	吉田 幸平	岐阜市
	宮崎 惇	笠松町
事務局長	*井上 幸治	岐阜県博物館
事務局員(会計)	山田 美樹	岐阜県博物館

\*印=新任

### ○専門委員会

機関誌ホーム ページ委員会	氏 名	所 属
委員長	*浅野 裕司	岐阜県博物館
副委員長	*山田 昭彦	岐阜県博物館
研修・研究 委員会	氏 名	所 属
委員長	榎本 徹	岐阜県現代陶芸美術館
副委員長	渡部 誠一	岐阜県現代陶芸美術館
公開講座 委員会	氏 名	所 属
委員長	古川 秀昭	岐阜県美術館
副委員長	岡田 潔	岐阜県美術館
地域博物館 活性化委員会	氏 名	所 属
委員長	*若宮 多門	若宮修古館
副委員長	*長縄 厚雄	内藤記念くすり博物館

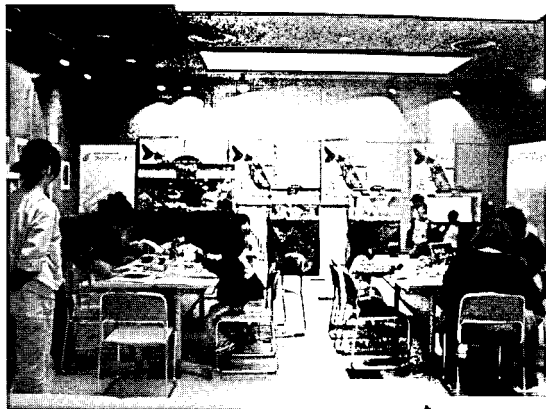
\*印=新任

## 平成20年度 地域活性化支援事業進捗状況報告

### 水族館とコラボレーション（岐阜地区）

「平成20年度岐阜地域活性化事業」として承認いただいた企画案（水族館とコラボレーション）を平成21年3月20日（祝）より3日間、かかみがはら航空宇宙科学博物館（各務原市）に会場ご協力いただき開催いたしました。

会場には、地元木曾川で見かける身近な魚（タナゴなど）や、キフォティラピア・フロントーサといったアフリカにすむ魚、フトアゴヒゲトカゲなどの生体展示の他、オリジナルお魚ぬりえやお面づくりも実施し、来場されたお子様を中心にご家族皆様に大変好評をいただくことができました。ちょうど春休みが始まる時期に実施することができ、多くの皆様に地域の魅力をお伝えすることができたと感じております。



いくつかの施設が連携し、岐阜地区博物館の魅力発信や認知向上・利用促進において、協調していくことの大切さと必要性を改めて感じました。

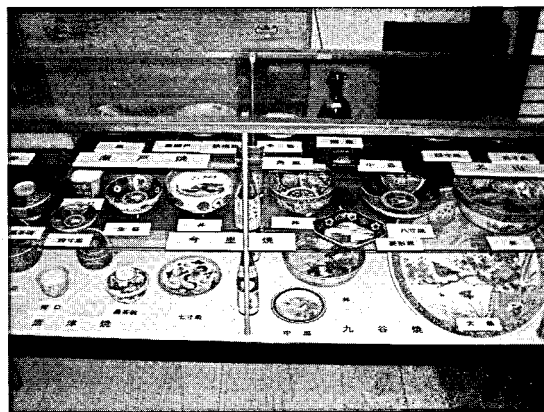
今後も地域全体で連携しあい、お客様とのコミュニケーションを通じて、観光交流や活性化に繋がればと思います。今回事業採択いただけましたことに改めて御礼申し上げます。

（岐阜県世界淡水魚園水族館 高木洋暁）

### 明治時代の陶器や膳等の展示（中濃地区）

明治時代は各家庭において冠婚葬祭や年中行事などが営まれ食事様式が充実していました。

造り酒屋では酒造期における節目の時（蔵人さん達の蔵入り、仕込みが終わる掛止め等）に独特の食習慣や祝い事が盛大に行なわれていました。朱や黒塗りの膳から陶器類など、様々な器や用具が揃えられました。



産地は近く的美濃・瀬戸・犬山焼きを始めとして、遠くは九州の唐津・今里焼、北陸の九谷焼、輪島塗などです。この度、地域博物館活性化支援事業を受けて、これらを整備し公開しました。

「富加の酒造用具及び酒造場付文書」として平成7年6月に岐阜県重要有形民俗文化財に指定されました。今までに酒蔵コンサート（ピアノ演奏・箏・尺八・三味線・リコーダ・合唱等）して来ました。毎年2月から3月の「お雛様展」では明治時代のお雛様や土雛などを展示して多くの人達に楽しんで頂いています。

平成19年度には岐阜県博物館協会の公開講座（第112回）を開催し「日本酒造りに命をかけた熱き思い」と題してお話しました。

日本酒は日本人の生活に無くてはならないものとしてあり続けてきました。酒造りも機械化が進み昔ながらの手法や様子が消え去ろうとしています。今でも手作業でのお酒を造っているその現場に来た、酒造りの歴史を直に知って欲しいと思います。特に岐阜県には「日野杜氏」が明治時代から昭和30年頃まで活躍していました。この酒造用具類や食器類に触れていただく中で先人達の食文化の高さや、酒造りへの情熱を感じていただきたいと思います。

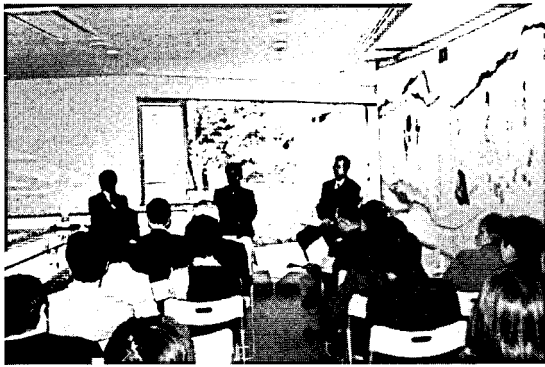
（松井屋酒造資料館 酒向嘉彦）

## 平成20年度 地域活性化支援事業進捗状況報告

### 歌となる言葉とかたち2008シンポジウム（中濃地区）

歌となる言葉とかたち展は、歌人が提出した短歌作品を造形作家が鑑賞して広げたイメージを彫刻やインスタレーションなどとして造形化するという、歌と造形のコラボレーションです。毎年秋に古今伝授の里フィールドミュージアムの屋内外に、それぞれ30数点の作品が展示されており、平成20年には12回目を迎えました。

このシンポジウムは、参加者自らが同展の活動や社会的な意義を再認識し、さらには文学と芸術の融合という取り組みが再評価されることなどを期待して開催されました。



同展会期中の11月8日に和歌文学館を会場にしてギャラリートーク風に開催されました。大阪大学名誉教授の島津忠夫先生の「短歌世界の視覚化とは」と題した基調講演では、これまで歌人として参加されたご自身の経験をもとに、発表された自作歌がどのように解釈されるのか、また、造形作家が作品制作の段階でどのような視覚化を試みるのかが、大変興味深い企画であると評されました。また、歌人の意図しない解釈が別次元で成立して広がりを感じることができたり、作品と題名の関係性についても現代短歌の場合にも「つかず離れず」のかたちで連作、群作の表題に反映されていて、短歌が造形作品の題名にあたるのではないかとも話されました。続いて小塩卓哉中部日本歌人会委員長、伊藤茂同展運営委員長を交えたパネルディスカッションや事例報告をおこないました。

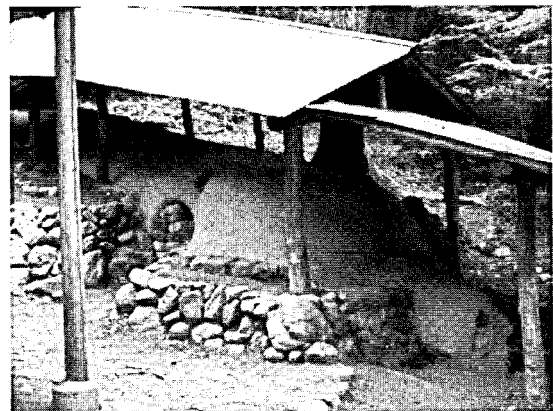
参加者をした東京の歌誌編集者や学術研究者など約40名が、今後の展望などについて自由に意見交換をおこない、翌年度以降の運営のほか他館との交流などについても期待の持てる発言や建設的な意見が多く出され閉会しました。

（古今伝授の里フィールドミュージアム 三島宏治）

### 荒川豊蔵使用半地下式大窯の修理（中濃地区）

当館では、豊蔵が生前使用した大窯を保存管理してまいりましたが、二十数年経過した現在、損傷がひどく、補修を加えなければ崩れてしまう危険が発生しました。そんな折、平成20年度博物館活性化支援事業の一環として支援の申込申請があり、応募したところ支援していただけることとなりました。申請が受理されたのが10月末で、寒い時期の窯修理は窯材が凍るため修理に適さないと判断し、春を待っての作業となりました。予算の少ない中、当館関係者のみで修繕に取り組みました。窯の修理は何分初めてなので手探り状態でしたが、関係者の1人が以前登り窯修理をしたとのことで、全面的にお願いをしました。どのような修繕が一番よいのか大変悩みました。保存第一と考えれば窯全体を樹脂で固める方法がよいのですが、当館としては使用可能な状態での保存を考えていましたので、現在でも窯補修に使用されているモルタルに砂・水を加え、風化を防ぐ目的で表面をカバーしていくこととしました。実際取り掛かってみると想像以上に損傷が激しく、大変手間のかかる作業となりました。また窯を覆う屋根の柱の取替えや窯への道の整備も同時に行うことが出来ました。これを機に、非公開であった窯を公開する方向で進めていこうと思っています。

この支援事業が当館にとりまして大きなステップアップにつながると確信しています。関係者の方々やアドバイスを下さった方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。



（窯修復後の姿）

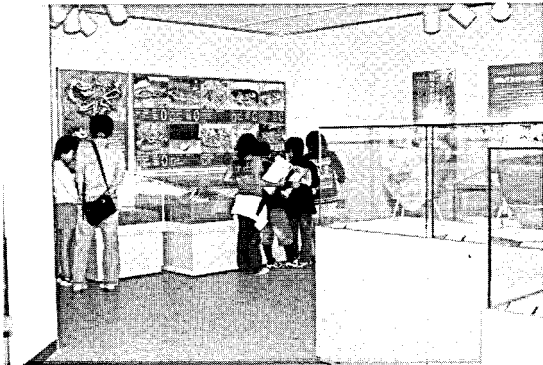
（財団法人豊蔵資料館 加藤桂子）

## 海津市歴史民俗資料館

〒503-0646海津市海津町萱野

TEL: 0584-53-3232

FAX: 0584-53-3231



### 改装なった海津市歴史民俗資料館

平成17年3月、海津、平田、南濃の三町が合併し海津市が誕生しました。これにより海津市は東の養老山脈から海拔ゼロメートルの低地までを含む特色のある地形と歴史遺産を有する新市となりました。

合併に伴って当館は、「輪中」(2階)と「高須藩松平氏」(3階)に加えて、これまで南濃町で発掘された「貝塚・古墳」の常設展示を増設し、20年3月リニューアルオープンしました。岐阜県内では当市にしかない貝塚(庭田・羽沢貝塚)、百基以上も確認されています。

古墳を中心に、その出土品を展示して古代の海津を紹介しています。(1階)

20年4月には、記念特別展「縄文人 海と出会う!海津と知多半島の貝塚」、21年2月には「里帰り展 海津に残る古墳の主を探る」を開催。いずれも好評のうちに終えることができました。

年間の企画展は、今年度も「高須藩松平氏」と「貝塚・古墳」を柱に2回の開催を予定し、より多くの方々に海津の歴史にふれていただけるよう努力していきたいと思ひます。

開館16年、まもなく五十万人の入館者を迎えようとしている当館は、県内外から多くの見学や研修に利用されています。来館目的のうちもっとも多いのは「輪中の歴史と生活を知る」であり、小学生の社会見学、大学生のゼミ、高齢者の生涯学習講座まで幅広く利用されています。改装を機に、「貝塚や古墳」にも焦点をあて市内小中学校への「出前講座」や「勾玉づくり・竪穴住居づくり」などの体験学習に、さらに力を入れ親しみのある資料館をめざしていきたいと思ひます。

また当館には「完全な姿で発掘された木造の排水遺跡 金廻四間門扉」を保存展示していますが、残念ながらあまり知られていません。国内ではここでしか見られない貴重な遺跡であり、輪中の理解のためにも、ぜひ見学されることを願っています。



<開館時間>午前9時半～午後5時

<休館日>毎週月曜日(月曜が祝日の場合は翌日。年末年始休館)

<入館料>大人310円、小中学生150円。  
(団体割引あり)

<交通>・養老鉄道「石津駅」か「駒野駅」で下車し市営バスで約15分。「歴史民俗資料館前」下車。  
・大垣駅より近鉄バス「高須行」終点より徒歩で約20分。

(海津市歴史民俗資料館 加藤和保)